

Title	穀価調節策論を評す (中)
Sub Title	
Author	河津, 暹
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.2 (1915. 2) ,p.162(54)- 173(65)
JaLC DOI	10.14991/001.19150201-0054
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150201-0054

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

穀價調節策論を評す(中)

河 津 暹

第二節 直接行動に由る穀價調節策

關稅々率の上下高低に由りて穀價を調節し難きは前節略之を論述したり。本節に於ては政府が直接に市場に臨み穀價廉きに過ぐると見れば穀物を買上げ、反之穀價不廉に失すると見れば穀物を賣下ぐる時はよく穀價調節の目的を達し得べきやを研究する所あらんとす。予輩は假りに之を直接行動に由る穀價調節策といはんと欲す。關稅々率を上下して外穀の輸入を動す如きは政府が直接に穀物の需要者若くは供給者として市場に顯はるゝものに非ずと雖も、政府が自ら進みて賣下買上をなすは政府が直接に其需要供給を動かさんとするものなれば其の經濟社

會に及す影響自ら同じからざるなり。此調節策の價值を研究するに先づ穀價を騰貴せしむるが爲に政府が穀物の買上を行ふ場合より筆を起さん。我政府も曩には千五百萬圓を以て穀物を買上ぐべきを決し、法案を帝國議會に提出したれども、議會は之につきて討議するに先ちて解散を命ぜられたれば其通過を見ることを得ざりき。政府にして曩に議會に提出したる案にして最善最良のものとなす以上は、穀價を騰貴せしむることが目下の急務なりとなす以上は、同じ方法に由りて其調節をなすべき筈なるべきに、政府は穀價を調節する方法等につきて更に研究中なりといふに至つては予輩は之を評するの辭を求むるに苦しむ。政府の議會に提出したる調節案は政略上唐突に作製提出せしものにて十分の確信なきものなるか、予輩は爲政者がかくの如き不眞面目なる行爲を敢てするものなりとは信すること能はざるなり。然らば經濟社會の狀態が變化したるが爲に曩に是としたるものも之を變更せざるに至りたるか、予輩不敏にして經濟社會がかくの如き變化を生じたりと信すること能はざるなり。故に政府が之につきて研究中なりといふは畢竟全部責任を負擔して之を實行するには細目につき豫め研究するの必要ありといふ

に止り同じ精神を以て同じ方法に由りて之れが調節策を行ふものと解せざるを得ざるなり。有體にいへば予輩はかくの如き方法に由りて穀價調節の目的を達し得べきかを疑ふものなり。請ふ試みに之を論せん。

既に穀價を調節するといふ以上は上に陳べたる如く精確なる標準を求め得べからずとするも少くとも農業者をして相當の利潤を得せしむるに近き程度まで其穀價を騰貴せしめて而かも少くとも數月の間は再び下落せしむることなきを必要とすべし。是れ穀價調節といふ文字に自ら含有する意義なるべし。單に一時或程度まで穀價を釣上ぐることを得ば穀價調節の目的を達し得たりといふものあらば予輩は論者の輕率なるに驚かざるを得ず。否穀價調節の意義にしてかくの如き無雜作のものならば、昨今の穀價騰貴を以て既に其目的を達したり、強いて此以上政策を用ふるの要なしとの議論も生すべきに似たり。予輩は穀價調節の意義をかくの如く解せず上に陳べたる如く少くとも農業者をして相當の利潤を得せしむるに近き程度まで其穀價を騰貴せしめて而かも少くとも數月の間之を維持せしむべきものと解するが故に、其目的を達するには驚くべき巨額の資金を以て市場に

臨むの必要ありと信するものなり。否政府が如上の目的を達するまでは厭くまで其政策を遂行すべきこと明ならざるべからざる可らず。假りに政府は僅に千五百萬圓の程度に於て之を買占むるものなりとせば、之を石數に引き直せば僅に百二十三十萬石の米穀を買上ぐる力ありといふに過ぎざるなり。我國の米穀の市場に出づるものを假りに三千萬石なりとすれば、三千萬石の穀價を僅々百二十三十萬石の米穀を以てよく上に陳べたる程度に於て左右することを得べきものなりや予輩は之に惑はざるを得ざるなり。此點につき先覺の明漸なる教を受くるを得ば望外の幸福なり。若し其金額にして不幸にも予輩の妄斷する如く穀價を調節する上に於て未だ十分ならずとせば、或は政府の穀價調節に用ふべき資金にして既に大半を消費したること明となるに至らば折角奔騰し來りし穀價は急轉直下して大暴落を見るに至るやも未だ知る可らざるなり。かくの如くんば、是れ穀價の調節に非ずして寧ろ穀價の攪亂といはざる可らざるなり。或はいふ所のいふ所は實に把憂に過ぎず、我國米穀の市場に出づるは予の已に知る如く三千萬石が一時に之に出づるものに非ずして少しづゝ顯はるゝなり、故に政府が其資金を巧に運用して之

が買上を行は、其目的を達すること必しも難きに非るなりと。或は然らん、然れども假りに論者のいふ如く此手段に由りて穀價を或水準まで騰貴せしむるを得るとするも、是れ政府が巨額の資金を擁して投機を行ふものにて、其國民經濟に及す永久の感化影響に至つては大に憂ふべきもの存するに似たり。而かも當局者の方針掛引は政府に最も近接せる御用商人の夙に聞知する所となりて其私腹を肥すに畢らすともいふ可らざるに似たり。かくの如きは鹿を逐ふもの山を見ずとの譬の如く、穀價調節の利益を以て償ふこと能はざる底の弊害を醸すに至るやも未だ知る可らざるなり。是れ予輩の大に憂ふる所なり。

更に政府が特に巨額の資金を以て買上げたる穀物は之を如何に處分せんとするか、是れ本調節案の價值を定むるに當りては是非知らざる可らざることに屬す。政府は其買上たる穀物を保存し置きて他日我國に凶作起りて穀價の奔騰したる曉之を市場に出して以て其勢を妨止せんとするか將又、其の買上たる穀物を外國に輸出して之を賣捌かんとするか。若し政府の意にして前者にありとせば、恰も昔時の常平倉制度に均しきものを再現せんとするに外ならず、豊凶循環の年數は如何

あるべきか研究を要すべき問題なり、特に農業技術は近年著しく進歩したるを以て人爲的に自然の缺欠を補ふの道開けたるを以て其の關係を知ること容易ならざるに似たり。農業學者の説明を聞くに非ればこの點につきて尙不安の念禁する能はず。聞く所に由れば農商務當局者の意見にては我國にては二年の收穫を平均するを得ば穀價の調節をなすを得べしと。このことたる蓋し相當の根據ある説なるべし。然れども予輩不學にして其根據を得ること能はず。故に少くとも予輩よりいへば其の説明を聞かざる間は尙多少の疑を有せざるを得ず、而して若し其説にして正鵠を得たるものならんには穀價の調節の如きは我國にありてはさまで解決し難き問題に非ずと信ず。然るに政府が尙如上の如き手段に訴ふるに非れば之を調節し難しとなす所以のものの意果して那邊に存するか、予輩大に惑はざるを得ざるなり。且つ昔時交通の便開けざる時代にありては常平倉の制度は最も有效なるものなりしは疑を容れず。然れども交通の便大に開けたる今日尙この制度が昔時の如き效果あるものなりや、この點につきても亦多少の疑なき能はざるなり。此等のことを一々研究するに非れば俄に此政策の價值を斷定すること能はざるも

のゝ如し、予輩を以て之を觀れば政府の買上げたる穀物は之を保存し置きて凶作の時に市場に出すよりは寧ろ之を外國に輸出して賣拂ふ方遙に簡便なるが如し何となれば古昔にありては交通の便を得ざるが爲に凶作等の場合には價格の高下を論せず國民を養ふに足るべき丈の穀物を得ること難かりしが故に之を國內に保存し置く必要ありしと雖も今日に於ては汎く外國より供給を受くる便あるを以て強いて之を國內に保存し置く必要なく寧ろ之を外國に輸出し一面に於て內國市場に於ける供給額を減じて穀價の恢復を計ると共に一面相當の價格を以て之を賣捌く時は爲に比較的少き負擔損失を以て目的を達するを得るやも知る可らざればなり。否政府が適當の機關をして穀物を輸出し之を賣捌かしむるに當り生ずる損失を填補する資金として千五百萬圓を用ひる時は或は或程度までは穀價調節の目的を達し得べきやも未だ知る可らず。このことにして太過なしとすれば予輩の見る所にては政府が穀物を買上げて更に海外市場に於て賣拂ふよりは初より輸出獎勵金の制度を設けて内穀を輸出するものに對して一定の歩率を以て之に獎勵金を下附する方遙に簡便なりと信ぜざるを得ず。帝國農會の提案の中

には輸出獎勵金の議ありしのみにて其詳細のことにつきては之を聞くことを得ざりしと雖も予輩は同農會の提案の中にては最も實行し易きものなりと爲すものなり。尤も輸出獎勵金に由りて海外市場に於ける價格を攪亂することは方今通商の大義に悖るのみならず、當該國より更に輸入税額を増加して其の勵を防止せらるゝ虞なきに非ずと雖も適當の程度に於て適當の數量に對してこの政策を行ふも相手方の經濟に甚しき害を及すものに非る可ければ其政策を阻止すること萬ある可らずと信するなり。

以上は政府が穀物を買上げて以て穀價を調節せんとするに對して有する意見の大要なり。憾くば農業に關する知識を缺如するが爲に先覺の教を受くるに非れば確實なる意見を披陳すること能はざることなり。若し內國市場に於て穀價奔騰したる場合に穀價調節策として政府は穀物を賣下げべきものなりやといふに、これも實行手段としては政府は外國市場より穀物を購求めて適當なる價格を以て內國市場に賣下ぐるより外に道なかるべし。このことたる穀價奔騰して、塗に餓孚ある底の慘害を生ずるに至らば或は用ふ可き手段なるやも知るべからずと雖も俄に

用ふ可らざるなり。内穀の價格の騰貴を防ぐ方法として穀物關稅の如き内外市場を離隔する障壁を除却するを以て最も安全なりと信ずるものなり、このこと前節に略述したるが故に茲に之を省く。尙本節を終るに臨み穀物專賣論につきて一言し置かんと欲す。我國論者の中穀價の變動甚しく、社會下層の者を苦しめ經濟社會に動搖を來すを以て社會政策的見地よりして米穀を專賣として、政府は毎歲各地方の狀況を審査し適當の價格を以て農業者より之を買上げ、適當の價格を以て之を賣下ぐべしといふものあり。この説が多少の反響ありしや否やを知らずと雖も予輩は其提案の余りに無難作奇矯にして社會主義者に非ずんばかゝる政策を眞面目に主張することなかる可きを信せんとするものなり。穀物の價格の如きは需要供給の關係に由りて定りて、政府の力を以てしても如何ともすること能はざるなり。需要は穀物の如きものにありては比較的變動せざるものなりとするも、其供給に至つては歲の豐凶に由りて大に變動すべきものにして其價格も亦之に隨つて變動せざるを得ず。其價格にして變動すべきものとすれば、政府は之を買上るに當りて同しく其買上價格を上下せざるを得ざるなり。其買上價格を上下する以上

は政府が特に甚大の負擔をなすことを敢てせざる限りは、其の賣下價格も亦之に準して上下せざるを得ざるなり。かくの如くんは穀價を一定の水準の前後に置かしむる如きは到底望み得べからざることに屬す。政府が穀價を一定の水準前後に在らしむる目的を以て其買上價格を一定して動かさしめざる時は其買上價格にして比較的低位にあらしめんか、多數の農業者をして相當の利潤を得せしめざることに當り、暴政之に過ぐるものなきに至るのみならず、時に或は其國經濟の基礎を破壊せすとも限らざるなり。さればとて其買上價格を比較的高位に置かんか其賣下價格も亦勢ひ之を騰貴せしめざるを得ざる結果を生ずべし。かくの如きは一般の消費者に多大の苦痛を與ふることにて是又國民の休戚に至大の影響を及すこととならざるを得ざるなり。煙草の如き奢侈品にて國民の生活に密接の關係なきものに至つては、たとひ其專賣價格にして著しく高くとも、其國民經濟に甚しき惡影響を及すことあらざる可しと雖も、穀物の如きは決して然らず、其價格の高低は其國民經濟に甚大の關係を有するものなれば、決して之を同一視す可らざるなり。故に政府にして一方に農業者の利潤を重視すると同時に一方に一般消費者の利

害休戚を重んじ成るべく高價にて農業者より之を買上ると同時に成るべく之を廉價に賣下げんとする時は政府は其間に立ちて多大の損失危険を負擔せざる可らざるなり。かくの如きは如何なる政府と雖もよく堪ゑ得べきことならんや。これ等は政府が社會政策上の精神を重んじ行動すべきことを前提として、到底之を實現し難きを陳べたるに過ぎずと雖も、政府にして穀物專賣の制を敷かんか、財政其他の必要に迫らるゝことあるに拘らず、よく獨占者の位置を亂用して穀價を騰貴せしむることは斷して有り得べからざることなりや、予輩は不幸にして之を信ずること能はざるなり。鹽專賣制度にすら尙怨嗟の聲を聞くに非ずや、國民の常食物の專賣制度を布き、少くとも國民をして政府が之を濫用したることなきやを疑ふを得せしむる形跡あらんか、其の禍害の及ぶ所決して輕からざるなり。假りに數歩を譲りて政府はよく國民經濟に及す影響に重きを置き其獨占者の位置を濫用することなしとするも、政府が國民の常食物の唯一供給者となれば其勢力極て大となり、國民經濟上利益なるべきや大に疑はざるを得ざるなり。予輩はミル等の説く如く政府の勢力が強大となるを以て社會弊害の根原なりとなすものに非ずと雖

も、政府の勢力が余りに強大となるは國民の元氣を銷沈せしめ國民經濟上憂ふべき結果を生ずることあるは之を信せんと欲す。これ等二三の點より觀るも穀物專賣制の如きは多くの害ありて利益の少きものなりといはんと欲す。同專賣制度を主張する者は獨り穀價の調節といふことのみに注目せずして廣く其國民經濟に及す影響につきて考案せざる可らざるなり (次號完結)